

お産も入院もできる 公的病院を!!

市民の願い—— 私たちはあきらめません!

お産ができる病院が無くなる!入院している子どもの行先がない!
3月末の住吉市民病院の廃止を前に、小児病棟が2月28日に閉鎖、さらに3月20日で
外来が閉鎖。市民の不安や病院関係者の悲しい思いが渦巻きます。



「住吉市民病院を充実させる市民の会」は、“出産も入院もできる公的病院を2018年の4月以降も残すことを求める署名”を1ヶ月という短期間で集めた8101人分を市会に届け、引き続きとりくみを強めています。

**「家族の付き添いなし入院」
「重症心身障がい児の短期入所」
など機能を引継いで!**



朝日新聞2月7日付

利用者たちの切実な声

私たちどこに
行ったらいいの?



(住吉市民病院は)どんな夜中でも早朝でも、発作を起こしたわが子を受け入れて治療してくれ、重度の心身障がいを抱えた子どもを持つ親にとって、とても心強い存在です。
とりわけシングルマザーや仕事を持つ親にとって、付き添い無しでも入院を受け入れてくれる機能は、なくてはならない貴重なものでした。

重症心身障がい児など医療ケアを必要とする子ども達の行き場がなくなってしまう。様々な問題を抱える母親たちが、安心して子どもを産め、子育てができる病院を必ず確保してください。



お産ができる
病院が
なくなるわ

とにかく潰すことを先に決めて、
あとは何とかなるだろうというやり方は、
行政のやり方として無責任、
失敗したことを早く認めたほうがよい
(古賀茂明・ABC放送キャスト)



最低でも30床の入院機能は必要です!

吉村市長は、住吉市民病院跡地に市立大学医学部附属の新病院を設置し、新病院開設までは診療所を設置する方針を発表(右記参照)。しかし、この計画は市大病院との協議が不確定。しかも、5～6年の医療空白が必ずおこります。

地域の医師からは「最低でも30床の入院機能は必要だ」との声があがっています。

提案内容は?

- 住吉市民病院を廃止後に、小児科週5日・産婦人科週2日の外来診療のみ、入院は無し
- 5年・6年後に、住吉市民病院跡地に市立大学医学部附属の新病院

市長は市民の声に寄り添い、患者の受入れ先を確保してください!